

# フランスから初来日した クラリネット音楽劇団！ 「レ・ボン・ベック」の90分

撮影＝中村宣一 取材協力＝郡尚恵、サイトベインル139

「最初は普通のクラリネット四重奏  
団で始めたんです。そのうちにポップ  
スやジャズ、ラテンも演奏するよう  
になり、パーカッションを加えてみた  
ところで、『動きも入れてみようよ！』  
となった……」

と語るのはグループ創設者のフロ  
ラン・エオ。トゥーロン1位の入賞歴  
もあり、ソリストとしても活躍するフ  
ランスの逸材だ。メンバーは他に、エ  
リック・パレ（エオと彼がソプラノ・  
クラリネットを担当）、フランシス・  
プロスト（バセットホルン）、イヴ・  
ジャンヌ（バスクラリネット）、それ



にパーカッションのブルーノ・デムイ  
エールの各氏。それぞれにフランスで  
活躍する実力者揃いで、そんな彼らが  
ドタバタのボードビリアンに徹し、90  
分間、観客の目と耳をとらえて離さな  
い。

結成は1996年。

「演出は最初、自分たちでやってい  
ましたが、今は演出、照明、編曲、衣  
装までプロが手がけています」

4月20日、東京・六本木のサイト  
ベインル139で行われた公演は、音  
楽による世界巡りという趣向。ステ  
ージに置かれた5個の色違いのボックス  
を車やカヌー、難破船など様々なもの



南米巡りではこんなトロピカルな鳥に扮し  
た4人をブルーノが操り人形のように操る。

に見立てて場面転換を進めていく。  
たとえば……、車のエンジン音を真  
似た音を出して動き回る4人を、パー  
カッションのブルーノが忙しく交通整  
理したり、譜面台を逆にしたオール  
で漕ぎながら、ゆったりとカヌーで進  
むなか、鳥の鳴き声や汽笛がクラリネ  
ットで見事に模倣されたり、アメリカ  
旅行ではラップありボイスパーカッシ  
ョンあり、タップダンスとドラムの対  
決あり、ロシア旅行では定番の「剣の  
舞」でコマネズミのように回転する、  
等々……。

こうした演出がただのドタバタ劇に  
終わらないのは、もちろんその中心に  
並外れたレベルの演奏があるからだ。  
Ebクラリネットからバセットホルン、  
バスクラリネットまでを（物理的にも  
音楽的にも）軽々と操り、ソロやアン  
サンブルで超絶技巧を決める度に、満  
員の客席からは大喝采が沸き起こっ  
た。

「動きながら音楽をする上で一番難  
しいことは？」と聞くと、即座に「音  
楽を良いクオリティに保つこと」とい



サウンドペインティングや即興音楽、現代音楽の分野で活動するな  
ど、それぞれに個性的な演奏活動を行っている4人。左端がエオ。

う答えが返ってきた。

「我々他者の似たグループとに違い  
があるとすれば、それは劇よりも音楽  
を演奏する時間が長いということ。エ  
ンターテインメントの中に、しっかり  
と音楽があるのです」

とエオは語る。質問ついでに、ロー  
ライスケートで舞台を動き回るスウェ  
ーデンのクラリネットの異才、マルテ  
イン・フレストの例を挙げると、氏は、  
「あれは難しすぎるし、完璧に出来な  
いと危険だから」

氏は単独で何度か来日しているが  
「レ・ボン・ベック」はこれが初来日。  
アイスランドの火山噴火の影響でフラ  
イトが遅れ、公演前日の夜に成田に到  
着したというが、時差や疲れを全く感  
じさせず、「天国と地獄」でプログレ  
ムのフィナーレを迎えたあとにアンコ  
ールを3曲もサービス。3曲目では、  
「僕の壊れたクラリネット」を日本語  
で歌い、途中から観客も参加して大合  
唱となった。

5月には韓国の釜山とソウルでコン  
サートを行い、7月にはアヴィニオン  
音楽祭にも出演するという。



演奏も音楽も入念に仕上がっており、どんなに動きを伴っても乱れない。